中庭

家庭科室

コンピューター室（デザイン専攻）

基礎実習室

アクティブラーニングルーム

版画室

マルチホール

学校教育理念

自由快活な校風のもとで　多様性を尊重し共に高め合い　美の精神をもって
広く社会に貢献できる　高い理想をもった創造性豊かな自立した　青年を育成する

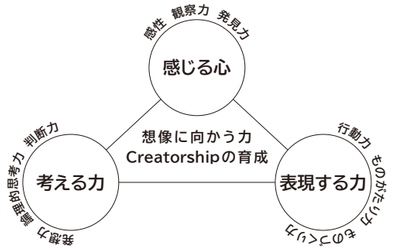
この理念のもとに、特色ある教育活動を通して、一人ひとりの能力・適性を伸ばし、
自己実現を図れるよう以下のことを目標とする。

学校教育目標

- 多様なものごとに触れ美しさや本質を見出す「感じる心」を豊かにする
- 主体的に取り組み広い視野で柔軟に深く思考できる「考える力」を伸ばす
- 幅広い美術の知識や技能を学び自分の思いや考えを形にする「表現する力」を高める

育成する資質・能力

教育目標を達成するために、
生徒たちに対して右図のような
資質・能力を育成していく。



ご　挨　拶

京都市立美術工芸高等学校（美工）は、144年にわたる豊かな歴史と伝統を背景に、令和5年4月、私たちは京都駅東部エリアに校舎を移し、新たな章を開きました。美工は、美術専門高校としての誇りを持ち、文化芸術の都・京都の発展を支え続け、将来も変わらず愛されることを目指しています。今、世界は未曾有の変化の中にありますが、文化芸術を支える人々のパワーが大きなうねりとなり、閉塞感のある社会に希望をもたらすことができると私は信じています。美工での教育は、各々の個性を尊重し、想像力と創造力を養い、未来を切り拓く力を育むことに重点を置いています。探究心を育み、自ら学び続ける力を養うことで、あなた自身の無限の可能性に気づき、夢に向かって進む喜びを実感できるはずです。未来の担い手となる皆さん、美工の一員として自分が生きる未来について一緒に考え、創造する過程に参加し、共に成長しませんか。美工での経験は、あなたの感性が無限であることにあなた自身が気づくきっかけとなり、夢を抱いて歩むことの素晴らしさを実感できることでしょう。私たちと一緒に、未来を形作るクリエーターになる旅を始めましょう。

校長　名和野新吾

学校沿革

140年を超える歴史を持つ「美工」。文化と伝統を大切にしてきた京都であるからこそ、日本でも先駆けて誕生し、現在まで市民をはじめ多くの方に温かく支えられてきました。

明治13年 1880年	7月1日、京都御苑内准后御殿を仮校舎として京都府画学校開校、太政大臣三条実美公「日本最初画学校」と命名。東宗（大和絵）・西宗（油絵）・南宗（文人画）・北宗（狩野、雪舟派）の4科を設置、修行年限3年で発足。
明治22年 1889年	京都市に移管、京都市画学校となる。
明治24年 1891年	京都市美術学校と改称。絵画科・工芸図案科を設置。
明治27年 1894年	京都市美術工芸学校と改称。彫刻科を設置。
明治28年 1895年	漆工科を設置。
明治34年 1901年	京都市立美術工芸学校と改称。絵画・図案・彫刻・描金の4科となり、修業年限を4年とする。
明治44年 1911年	京都市立絵画専門学校（現 京都市立芸術大学美術学部）を併設。
大正15年 1925年	東山区今熊野日吉町の新校舎に絵画・図案・彫刻・漆工の4科で移転。
昭和23年 1948年	京都市立美術高等学校と改称。建築科を洛陽高等学校へ移管、絵画科の中に西洋画科を設置。
昭和24年 1949年	京都市立日吉ケ丘高等学校美術課程となる。日本画・西洋画・図案・彫刻・漆工の5科を設置。
昭和26年 1951年	陶芸科を設置、6科となる。
昭和27年 1952年	漆工科を漆芸科と改称、服飾科を設置、7科となる。
昭和55年 1980年	京都市立銅駝美術工芸高等学校を設置、旧銅駝中学校跡地に移転。実習棟竣工。染織科を設置し8科、定員110名となる。
平成9年 1997年	4科で科名変更、洋画科・デザイン科・ファッションアート科・テキスタイルアート科となる。
平成16年 2004年	8科を統合して美術工芸科とし、各科は2年次より選択する8専攻となる。
令和5年 2023年	京都市立美術工芸高等学校と改称。京都駅東部地区に新築移転。